

京都大学全学共通セミナー2014
「人間とは何かー生命現象の自然科学的・哲学的基礎」

村瀬雅俊

- ・ このゼミを通して私は京大生として知るべき現実を突きつけられました。卒業後、世界の諸問題を解決する際にはリーダーとして取り組まなければならない。そのような『エリートの責任』を自覚してください。また、このゼミに集まる様々な学部の学生たちは、将来それぞれの分野に進みつつもどこかで協力できると思います。自らの専門の授業だけを受講しては得られない、人とのつながりが得られるでしょう。
- ・ このゼミを通して、今まで自分が少しも思いつかなかった考えに触れることで、自分の人間というものに関する考えと改めて向き合うことができ、多くの気づきを得ました。ただ、抽象的な議論についていくのはとても大変でした。今まで自分は何をやってきたのだろうという無力感で一杯になることもしばしばありました。一方で、考える意欲に満ちた同回生たちに巡り合うには格好の場だと思いました。最後の佐伯さんのお話も心に響く部分が多く、とても貴重な時間を過ごせました。受講してよかったと思います。ありがとうございました。
- ・ 現代社会に氾濫する、夥しい情報や、出来合いの科学。これらのことに振り回されないために、私たちは何を、どう学ぶべきか？ということ、深く考えさせられるゼミでした。これから学問をしていく、そして社会を作っていく私たちにとって、この問いは避けては通れないでしょう。
- ・ まずこのゼミのテーマである「人間とは何か」という問いは、人間の誕生とともにありながら未だかつて誰も解けていない謎であり、また私にとっては比較的幼いころから親しんできたテーマでもありました。今までは本との対話を除いて一人だけで考えてきたこの問いを、他の受講生と議論しながら、また自分がつい省いてしまう理系の視点からも考えられたことは、本当に有意義でした。

このゼミの目的はそれだけではなくて、その問いに取り組みながら新たな視点を身に付けるということでしたが、初め、村瀬先生の質問は抽象的で、正直なところ禅問答かと思えるような質問ばかりに思えました。しかし、先生の考え方が分かってくるとなぜそのような問いを出されていたのかが一気につながってきて、弁証法の考え方や構造主義的な見方、類比など、どんなものかは知っていても実際にどう用いれば良いのかを知らなかった思考の手法も、徐々に浸透してきました。とはいえ、先生のお話を全て理解できたとは到底言い難いのですが。

先生のおっしゃるように、私たちは自分たちの周りのことを理解できていると思っているその実、それは思い上がりであって、ほとんど理解できていないのだと思います。これからは、私たちがこれまでの教育の中で馴染んできた、「必ず答えがある」とか「出題者の意図を読み取る」ような姿勢は全然通用せず、まず自分で問いを立てることに始まり答えを探していく必要があります。その上で、このゼミは今までの姿勢を転換する最大の転機になったように思います。

- ・ 生命とは何か。人間とは何か。その謎が完全に解けたとは、やはり言いがたい。最後の授業で先生が熱く語ってくれた話がすべての答えなのはわかっている、その要点を話すことはできても、まだ実感としての理解が追いついていない。長い大学生活、これからゆっくり時間をかけて、先生が伝えてくれたことの意味を考えていきたい。また、今回の授業を通して、「内と外」「入れ子構造」「メタ」など、様々な事象に応用できる抽象概念を少しは理解したり、視野の広さというより視野の次元そのものを上げるという思考法を学んだりできたことは、今後の学問探究にとって大いなる財産になることは間違いないと思う。

総じて、このポケゼミは僕にとって、研究者（職業的意味でなく、学問探求者として）の道の第一歩を押し出してくれた。先生への感謝は、僕の学問的成果をとおして、必ず伝える。

ありがとうございました。

- ・ このゼミで私は普段の生活の中で何も考えずに享受していたことに疑問を持つことの大切さに気づきました。しかし、疑問を持つには自分の凝り固まったものの見方から一度離れて物事を見ていく必要があります、"疑問を持つ、"ということは案外難しいことです。人生をただ生きるのではなく、意志を持って生きたい人は何かしらのヒントがこのゼミで手に入れることができると思います。
- ・ ゼミの内容は想像以上に頭を悩ませるもので時には考えが何も浮かばず発言できなくて悔しい時もありました。でもこのゼミで自分の無知さ、もっと勉強しなくてはという思いにさせてもらい無知の怖さも痛感し、このゼミを取って良かったと思いました。内容はすべては理解できないかもしれませんが、一部でも理解することで、今後の大学生活における勉強への意識が高まり良い経験だったと思いました。
- ・ このゼミで得た知識の全てを理解することはできませんでしたが、他の授業にはない刺激的な体験ができました。今までに考えもしなかったものの見方や発想など毎回驚きの連続でした。このゼミを選んで良かったです。短い間でしたが、ありがとうございました。

- ・ このゼミで得たものは非常に大きかったように思います。すべてを理解できているわけではありませんが、それでも確かに自分にとって新しく有用な考え方を学ぶことができ、また大きな意識の変化も起こりました。真剣に話し合える友達がいろんな学部にできたこともよかったです。
- ・ 他学部の人と知り合い、その人たちと先生とで議論を交わしていく。非常に大学生らしい刺激的な経験をすることができます。内容について難しいこと、納得しがたいこと、様々ですが、そういうことこそ議論で解決していく。それが出来るのがこのゼミです。自分の意見を発信していく場所というものは中々ありません。それを真面目に話し合える場所は非常に貴重です。取って損をすることはないと思います。
- ・ 一回生前期の段階でこのゼミを受講できたことは、私にとって意味のあるものとなりました。

人間が物事を考える方法や、世界の事象のそれぞれに共通する側面に着目することで、新たな知見に到達するためのひとつのきっかけの作り方を学ぶことができました。

毎回のゼミの中で行われる思考実験や各人の経験談を持ち寄ることで、参加者同士で話を深めていく作業自体もとても面白かったです。

また、ゼミの内容だけでなく、このゼミに集まった変人(笑)たちに出会えたことはまさしく財産です。

文系科目や理系科目といった分野を越えた総括的な思索をしたかった私は、京都大学に入りさえすれば同じ問題意識をもった友人に多くであえるものだろうと思っていました。しかし、普段の授業やサークルで過ごしている限り、待っていてもそのような友人に出会うことはないのだと実感したものです。

このゼミの参加者はいろいろな形で思考を重ねてきたひとが多く、多くの刺激を受けました。それぞれ考えは違っていても、寧ろそこが糸口となって世界がさらに広がるようでした。

私がこれから何をやっていこうかがはっきり分かったわけではありませんが、このゼミで学んだことやこの人たちの存在が、これからの私を大きく支えていくものになるだろうと確信しています。

短い間でしたが、ありがとうございました。

- ・ この文章のポケゼミ選択への利用も考慮した上で、極力簡潔かつ十分であろう感想を述べる。

1) 自ら考える姿勢を貫かなければ意味がないゼミだった。このゼミで村瀬先生がおっしゃりたかった内容は1回90分もあれば「言う」ことはできるが、それではその内容は他の瑣末な知識と同列に扱われ、重要性は決して理解されない。故にこのゼミでは、一見遠回りにすら思える議論を繰り返す中で、その本質的な内容に漸近していく方式を取る。だからこそ、すぐには結論の得られぬ問題に耐えられる人、自ら思考の過程を経ることの特別な意味を信じる人だけが、このゼミを有意義なものにできると思う。

2) メタ学習の方法については、実際に思考の過程を経て、多くの活きた認識を得ることができ、自分にとって大きな財産となった。

3) 「人間とは何か？」については、その内容が容易に受け取りがたく、たった十数回のゼミではその主張の真意、本質を理解するのは難しかった。少なくとも、重要な見方と問題は得られたが。

- ・ 半期という短い間でしたが、ゼミありがとうございました、そしておつかれさまでした。僕自身、しっかり考えることをさぼって授業に出席していた時期もあり、あまり褒められた学生ではなかったかもしれません。上手く頭に残らない話も多くありました。ただ、自分は学問の研究の進歩やら世界の真理みたいなものに近づくことよりも現実の世界で人々がより幸せに生きることに大きな価値を感じます。その点で、先生の6/17の講義（電波等健康被害の話）は自分には衝撃でした。ただ生きるということに対して真剣になって問題意識を持つということはこれから実践します。認識の方法の話や先生の学説に関してはこれから消化していきたいと考えています。「歴史としての生命」購入しました。どれくらい自分の中に落とし込めるかはこれからの課題です。と言いつつも、実は先生からよりも一緒に授業を受けていた友人らから受けた影響の方が大きいように思います。自分が学ぶことに対して真剣になりきれていなかったことを痛感しました。

最後になりましたが、このゼミの良いところは積極的に参加すれば誰しもが自分にとって大事なアイデアを得ることができることかと感じました。さらに、それが個人個人で違うところが非常に面白いと思います。文系理系なんて関係なく、1人の人間としてどう考えどう生きるかというお話の賜物ではないでしょうか。

重ねて、本当にありがとうございました。

- ・ 自分は高校まで生きてきて、「これが正しい」という絶対的なものなどありえないという実感を得てきました。そのことで気持ちは楽になりましたが、世の中が「どうせ何も信頼出来ない」と考えると世界は平板に見えるようになりました。かつての自分は、結果的に自己中心的な世界観に陥ってしまったと感じています。この前期のゼミで私は様々なことを知り、感じました。あえて一言で、自分なりに言うなれば、「*ものの味方が変わることで見えるものが大いに変わる*」ということです。

当然だと思っていたことでも、ちょっと考え方を換えれば謎だらけであったり、ほんとうに難問だと考えていたことが、味方を変えると知っている構造一つで説明できたり…、そういうことを*可能性として*感じられるようになってきました。(ぼくはまだこの方法に絶対的な信頼を置くことができないでいます。というのも、実は先生のおっしゃるような事象の解体の仕方は、あくまで過去の分析であり、結果ありきだという言い方が成り立つと思うからです。過去と現在のあいだに構造を加えて、そこで*未知のものを生成*することができれば、よいと思います。)

とくに精神病理、細胞の生物学、そういった科学的な事例を見せていただいたのが、文系由来の自分には新鮮でした。個の発見は、「まだまだ謎だらけだ」という、おどろきとおそれをもたらしてくれたし、「いや、このことだって、いつかするっと分かる視点があるのだ」と希望の光を感じることでした。すると世の中のことも、自分自身のことも、すごい奥行きを今ではかんじるようになりました。これはいい変化でした。2次元から3次元になるような感覚。いやもっと微妙で、0.14次元くらいの上昇かもしれません。先生のおっしゃることが全部わかっているとは思いません。しかしこれがメタ認知に近いものなのかな、と今は感じています。

その上でぼくはやはり先生の考え方に違和感を感じます。マクロとミクロが必ずとも一致するとは思わない。同型であると断じることは、多くの事実を漏らしてしまう。弁証法にも、より動的な視点から批判を加えるべきだ。人間はそんなに簡単に説明いくものじゃない。この世に真理があるとも思わない。(もともと、これらのことばは、先生がわれわれにショックを与えるために、ドラマチックな言い方をしなされたのかもしれませんがね。) ものの見方で世界は変わるし、これまでも変わってきた(科学上の発見、健康のための携帯電話の規制等)。ぼくはこのことを先生に教わった。これから先生の大著「歴史としての生命」を読破したい。先生はひとつの新しい哲学(あるいは新しい視点)を作り上げた。その上で、ぼくは自分自身の哲学をつくっていきたい。それは絵画や音楽の形をしているかもしれませんが。(哲学とは、新しい視点の提案をするものでもあるから。) 漠然とした言い方に鳴ってしまうが、新たな「かたち」を作り上げる、それが、ぼくの目下の目標であります。

加えて、ぼくは先生の生き方を直接肌に触れて知ることができたのを嬉しく思います。科学の現代社会に生命を脅かされ、憤り、死に物狂いで自分の学問を形成しようとする先生の姿に、ぼくはものすごさを感じています。

前期の内に、まだまだ僕では太刀打ち出来ないことがたくさんあり、読むべき本は多く、考えるべきことはたくさんある、と感じられたことは、非常に大きな学びの契機でした。

短い期間でありましたが、本当にありがとうございました。

- ・ このゼミを受けたことは私の将来の糧となったと思います。履修当初予想していた内容とは異なりましたが、このゼミで触れた様々な方の意見や考え方は、以前の私が考えもしないものが多く、非常にたくさんの新しい頭脳に出会えました。これは私にとって、とても有意義でした。

ゼミの内容については、人間とは何かに関わる部分よりも、考え方に関しての内容が私の将来の糧となったと思います。今も、このゼミで教わり、培った考え方をを用いて、自分なりに、自分の専門分野を体系化するアイデアを思い付きました。夏休みなど時間があるときにゆっくりと考えてみたいと思っています。今後もこの考え方をさらに自分なりに使いこなし、自分なりの考え方へと発展させて、活用したいと思います。

最終日にも述べましたが、このゼミを受けて、学問に対してどのように接するかということの方針を決めることが出来ました。単なる知識ではなく、学問の発展をもたらす思考の源、そういった生きた知識を得ていきたいと思いました。

このゼミによって、新しい考え方を身につけられ、私自身の考えを色々と整理することができ、とても有意義なものだったと思います。村瀬先生貴重なご講義ありがとうございました。よろしければ、今後とも宜しくお願い致します。

- ・ 私はこのポケゼミを通して多くのことを考えることができました。このポケゼミを受講して良かったと思っています。

私は「人間」、「生命」とは何かというテーマに興味があったと同時に、濃密な議論ができるということに期待して受講しましたが、そのどれをも満足な形で体験できたと感じていません。

まず衝撃だったのが、「人間とは何か」というテーマに沿って議論が進んでいくと思っていたらそうではなく、数概念や「知る」ということなどについて議論をし、それが「人間とは何か」ということにつながっていく形で進められたことです。途中で「どこから始めてもすべて同型」ということが明かされましたが、なかなか既存の思考様式から抜けられなかったように思います。しかし、そのような視点があるのだと認識できただけで大きなことでした。

その後構造主義や弁証法などを交えながら、「存在と認識と生命が同型」であるというところでは、完璧に理解はできませんでしたが、感銘を受けました。ある現象を他の分野にもアナロジーとしてあてはめてみたりすることは、これまで自分もしていたとは思いますが。しかし主体と認識と客体がすべて同型であるというレベルに行き着くことには凄みを感じました。

次に、このポケゼミを通して、さまざまな考えを持つ人たちと出会い、真剣に議論を交わすという経験ができたことが良かったです。普段の講義ではほとんどまったくないことですし、さらにこれほど多様な学部の人で集まって話すということは、本当に大きな刺激になり、充実した時間だったと思います。

中盤でなかなか糸口が見えずにもやもやしていたときも、その雰囲気や皆で共有して、それぞれがなんとか考えていこうとしている、そんな空気自体が非常に貴重なものであったと思います。

このポケゼミは参加した皆で作上げたすばらしい「場」だったと思います。ここでの学びや出会いがこれからの人生への大きな糧になったことを確信しています。

最後になりましたが、このような「場」を開いてくださった先生には本当に感謝しています。ありがとうございました。

- ・ 僕がこのゼミから得た一番のことは、「数少ない当たり前の論理だけで、全てを説明することができ、そしてまた全てを予期できるだろう」という考え方です。

かねてから僕は、何かの“真理”は常に単純かつ当たり前の事で説明できるだろうと思っていました。しかし、その具体的な方法が分からないでいました…

しかし、このゼミの序盤中盤で、ものの考え方を体得していくにつれて、“真理”を当たり前の言葉で説明するための手法に、かすかな道筋が見えた気がします。そしてまた、考え方を体得していくにつれ、自分の今までの脈絡無い思考に、言葉と論理を与えられるようになったとも思います。

このゼミの序盤中盤では、終盤で示される問題・命題を理解するための“ものの考え方”を体得していきます。それ故、時に、同じことばかりを何度も繰り返しているような閉塞感を感じたり、あるいは逆に頭がこんがらがってきて自己嫌悪になるかもしれません。

けれどそれに落胆し、ゼミを諦めてしまうのは非常に勿体無いことです。

このゼミの最後に示される光明。それは、それまでのいかなる閉塞感や自己嫌悪をも消し去る程の衝撃をもって、皆の好奇心を刺激するでしょう。

僕にとってこのゼミは、智の蜜の甘さを知るための大きな一歩を手助けしてくれたと思います。

追記:

この講義で得られる光明は、本当の本当に、講義の最後に出てきます。もし受講するなら、それまで諦めないで頑張ってください!!□

- ・ このゼミでは、「人間とは何か」という、非常に曖昧で大きな問題を考えるときの、一つのアプローチを示してもらえたと思います。

先生の考え方にたとえ賛成できないにせよ、一人の人間が長い年月をかけて辿り着いた考えを、面と向かって受け渡されるという体験は今までにない、良い経験だったと思います。もちろん半年のゼミごときで、この大きな問題にたいする答えは出るわけではないし、先生の考えのすべてを受け取れるべくもなく、ほんのはじまりの段階で終わってしまった感じは否めませんが、千里の道の一歩目を踏み出す契機にはなったと思います。

また、このゼミの良い点として、同じ興味関心をもつ、色々な学部の人達が集まる、ということが挙げられます。そうした人たちと知り合う良い機会にもなったと思います。

先生もいかに自分の意見を伝えるかに迷いもあり、試行錯誤しながらゼミを進めているので、積極的に授業に参加する姿勢が求められる、と思いました。

- ・ 私はもちろんこのゼミをとってとてもよかったと思っています。まず、まだまだ未熟ですが、どうすれば議論がうまくいくかヒントがつかめました。いままで言いつばなしの議論または、非難の応酬でなにも生み出さない議論に辟易していました。だからこそ、このゼミでみんな議論する中で、それこそ弁証法的に意見をまとめられないものかと思っていました。残念ながら中盤のほうでは、みんなの覇気がなくなり、議論がうまくいかないこともあったと思います。でもはじめと最後、または自主ゼミではみんな、少なくともそういう議論を目指したのはよかったと思っています。でもまだまだなのが悔しいです。やはり私たちだけでそのような議論をするのは難しく、先生が適切なところで話の流れを変えたりしてくださったり、あまりにも的外れな意見の指摘をおこなったりということが必要不可欠です。みんなも自分の意見に固執しすぎたり、自信を失いすぎたりといろいろ問題はありました。私はこれから、議論を活発にするためにはどうしたらいいのかということ課題にしたいと思います。つぎにこれはみなさんも書いていることだと思いますが、分かったつもりでいた構造主義や弁証法などをどう使うのか実際に体験して学べたこと、そして、過去だけでなく、未来つまり未知のことにも応用できる思考方法を身に着けてはまだいませんが…少なくともその手がかりを得られたことはこれからの財産になるとおもいました。今は自分の中にも消化しきれていない部分があって、まだまだ人に伝えるところまで達していません、しかし、いつか人にも先生のように説得力をもって言えるようになりたいと思います。最後に人間とは何か…ということについてまあ答えは一つじゃないのは分かっているのですが、まだ自分なりの答えは見いだせていません。他者の考えとしての人間とはなにかという問いの答えが頭の中にならずにただいます。電磁波の話もそういう意味では先生から聞いた一意見になっていしまいます。でも、これから、その難しいテーマから逃げずに、先生から教わった考えかたをもちつつ、また自分で発見しつつ、自分なりの答えを探していきたいと思っています。

あと、授業についてなのですが…このゼミには結構自分にたいしてのプライドが高かったり、癖のある人も多い（私も…？）と思います。もちろんそれが楽しいのですが、でも、先生の考え方を伝えるときにやはりまず懐疑的になりすぎる傾向があると思います。たぶんどれだけ論理的に説得されたとしても、宗教的にでも伝えないと、納得しないと思います。先生はむしろそれでいいと思っていらっしゃるのかもしれませんが…。でも生徒に反論されたときどうしたら納得してもらえるかはとても難しいと思います。私の場合は、結構ひとに共感したり、意外に素直だったりするので、感情に訴えかけられると右脳的？にその考えを共有できるのですが…。ひとによると思うので、ぜひこれからもこの素晴らしいゼミを続けて、いろんな生徒を納得させてください！